

はじめに

■多様化する学生への心理・教育的支援のために

近年の高等教育の普及に伴って、大学キャンパスに学ぶ学生のプロフィールは多様化の一途を辿っています。学生が大学教育に対して抱く期待は実に様々ですし、大学教育に対するレディネス面でのミスマッチも珍しいことではありません。

大学はアドミッションポリシーや大学情報の広報に努め、入学者選抜方法を工夫し、入学後の転換教育や補習教育や個別的学习指導、学生相談、キャリア支援システムの整備など、学生と大学の適合性を高める努力を様々に展開し、一定の成果をあげてはいますが、事態の進行に対策が追いつかない面があることも現実です。

そうした状況の中、学生達はそれぞれに「学生の季節」を生き、やがて社会人として巣立っていきます。しかし、その道筋は必ずしも好天温暖に恵まれる日々だけではなく、時には嵐に吹かれ雨に打たれることもあるはずです。苦しみや悩みといったストレス状態は人間成長の重要な契機ともなりますから一概に否定すべきものではないでしょう。しかし、時には、度を越した苦しみに苛まれたり極度の混乱状態に陥ってしまい、自力では動き出せなくなってしまう学生もいます。大学には、カリキュラムや授業の改革改善といった狭義の教学的支援以外に、こうした学生個人の内面に発する問題にも積極的に対応して、心理・教育的アプローチで学生を支援することが求められています。

本書は、学生諸君と日々向き合っておられる着任間もない新

任の大学教職員の方々，そして将来の大学教職員を志望しておられる大学院学生の方々を想定読者として編まれています。

第1章から第11章では学生相談現場で得られた知見と経験をお伝えします。「学生の季節」の構造的特徴や，典型的な相談事例を提示しつつ，大学教職員として学生を支援するための基本的なスタンスの取り方と具体的な方法論とを整理してお示しします。最後の第12章では，最近，法律的な位置づけがなされて社会の各分野での取組が始まっている発達障害学生への対処についてご説明します。

これらはいずれも大学教職員が，それぞれの職務において高い確率で遭遇するテーマですので，本書を，大学教職員の事前研修や初任者研修用のテキストとして，また，担当者として実際にそうした問題に直面した場合に最初に読んでいただく「第一選択」の資料としてご活用いただければ幸いです。